

学校だより

10月号

港区立白金小学校

発行人 加納 一好

平成二十九年九月三十日

安全・安心な生活のために

校長 加納 一好

秋分の日も過ぎ、ぐっと秋めいてきました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、何をするにもとてもよい季節になりました。

さて、学校では、まず、子供たちの安全・安心の確保に努めています。学力向上も健全育成も、安全・安心な生活があつてこそ成り立ちます。

今、安全・安心な生活を脅かすことの一つに朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）のミサイルや核開発問題があります。ミサイルは上空を通過しているものの日本の方向に向けて発射されています。今のところ、東京の方向には飛んできてはいませんが、注意する必要があります。学校ではJアラートが発信されたときの行動について子供たちに指導するとともに避難訓練も行いました。避難訓練では、簡易ヘルメットをかぶり廊下で姿勢を低くして待機しました。全校朝会では、学校にいるときとともに、登下校中にJアラートが発信された場合の対応なども指導しました。学級でも指導を繰り返し行いました。このことについては、ご家庭でもぜひお話し合ってください。

食の安全も安全・安心な生活には欠かせません。埼玉県で発生したO157の感染により三歳の子がなくなりました。同様のことが絶対に起こらないように、学校でも給食の安全を確保していかねばなりません。学校給食の調理員は定期的に細菌検査を行うとともに毎日健康チェックをしています。体調の悪い調理員には調理をさせません。また、使う日に新鮮な食材を入れる、野菜は流水で三回洗う、熱をしっかりと加えて調理するなど、安全管理を徹底しています。アレルギーへの対応も不可欠です。アレルギーのある子への除去食の提供はマニュアルを常に見直し、間違いがないようにしています。食物アレルギーのない児童にアナフィラキシーの症状が現れることもあります。アナフィラキシーの症状は様々な要因で発症します。食物アレルギーの届け出のある子だけでなく、すべての子の体の変化に常に気をつけることでさらに安全・安心な生活を目指していきます。

十月は生活科見学や社会科見学など校外学習が数多くあります。準備等へのご協力をよろしくお願します。

学校保健委員会

保健主任 平松 良江

十月五日（木）、今年度の学校保健委員会が開かれます。

体育館で、本校校医・歯科校医・学校薬剤師・港区学校保健会の婦人科医の先生方を講師にお迎えし、六年生の保健の授業を行います。授業内容は、「地域のさまざまな保健活動」です。

広く白金の地域で医療活動が続けられていらっしゃる先生方から直接講義を受けられる機会は、なかなかありません。内科（鈴木浩一先生）・眼科（古野史郎先生）・耳鼻科（山根康隆先生）・歯科（西辻直之先生）・薬（木村安紀子先生）・婦人科（中嶋章子先生）の六つのブースに分かれ、それぞれに関連した講義が二〇分間ほどあります。先生方は本題に沿って、パワーポイントや実験、資料など工夫され、六年生にわかりやすく医療と私たちの生活についてお話してください。

講義終了後、六年生が学習をまとめ、発表会を行います。五校時（五〇分間）の前半を講義、後半を発表とまとめの時間にしました。今年度は、参観の皆様にも講義内容がより聞こえますよう、簡易拡声器の導入を考えております。

授業終了後は、協議会を行います。子供たちを取り巻く身近な健康・安全問題を皆さんで考えていきたいと思えます。

参観は、全校の保護者の方、地域の方々皆さんが対象です。お誘い合わせの上、どうぞ、授業参観にお越しください。十月五日、十三時三十五分、スタートです。

「学びに向かう力」を育てる研究活動について

研究推進委員長 白石 裕彦

九月は、五年三組後藤学級、三年三組今野学級にて社会科の研究授業を行いました。五年生は「水産業のさかんな地域」、三年生は「わたしたちのくらしと商店」の学習です。研究のテーマ、「学びに向かう力」は、「学習にすすんで取り組もうとする」「課題にあきらめずに挑戦していこうとする」「自分の力をさらに高めようとする」「学んだことを自分や他者に生かそうとする」ことなど、様々な要素を含んでおり、どれも大切なことです。その中で、子供たちの実態を踏まえ、五年生は、「自信をもつて進んで課題に取り組む力」、三年生は「学習したことを身近な問題として捉え、自ら考え、表現する力」と定めました。

五年生は資料をもとに考えたことを活発に話し合っていました。後藤先生は一人一人の考えを受け止めつつ、さらに思考を揺さぶる問いを投げかけていました。子供たちは一生懸命考えて、考えを深めていました。そのあきらめず粘り強く考える姿、根拠をもって説明しようとする姿がとても印象的でした。

三年生は、スーパール見学で分かったお店の工夫をもとに、多くのお客さんに来てもらうには、どんな工夫が特に大切か話し合いました。子供たちなりに自分の考えをもって、友達のと比べて話し合っていました。面白かったのは、選んだ「大切なこと」から子供たちが考えたお店の名前です。「らくらくスーパール」や「信らいスーパール」という名前からは、子供たちが考えた「大切なこと」が浮かんできました。

今年度は、いろいろな学年・教科で、「学びに向かう力」を育てることを追究していきます。十月は、理科（六年）、十一月は国際科（三年）、十二月は算数（一年）、道徳（二年）で研究授業を予定しています。